

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(229)

世界的にも急速に拡大する飛行ロボット（ドローン）市場を見据え、国はこれまで原則認められていなかった有人地帯第三者上空での補助者なし目視外飛行「レベル4」を2022年度内に実現する計画である。また今

無線通信ドローンつなぐ

ネットワーク研究所・ワイヤレスネットワーク研究センター・ワイヤレスシステム研究室 主任研究員 三浦 龍

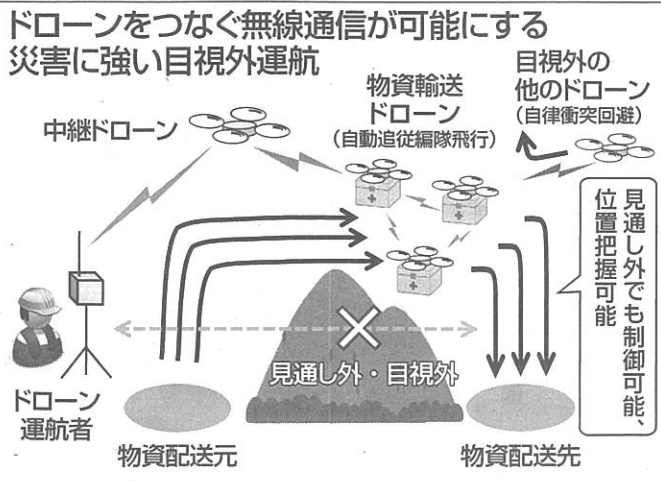
84年NICTの前身である旧郵政省電波研究所に入所。以来、衛星通信、成層圏中継、ドローン用無線などの研究に従事。センターの主任研究員を最後に退職し21年より現職。日本無人機運航管理コンソーシアム電波調整WG主査。



科学技術・大学

後は航空機や空飛ぶクルマも含めた一体的な展開・強化するという方向性も示している。NICTでは、10年ほど前から小型無人航空機（当時はまだドローンという呼称は一般的ではなかった）の重要性に着目し、主に災害時など

心はその有効性を検証してきた。またドローン同士やドローン同士が地上を經由せずに直接連携して自律的に衝突を避け、また自動追従による編隊飛行を行うことが可能であることを21年度初めて実証した。この技術では最大100m程度までの距離で通信が可能のため、ドローンとヘリコプターの間に適用できることも示された。



今後はさらに、無線通信に関する専門知識を生かしつつ対象を新しい「空モビリティ」にも拡張し、それらの統合的な安全運用に役立つ無線通信技術の研究を進めていきたいと考えている。

(火曜日に掲載)